

## 地域密着型サービス外部評価結果報告書

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会が実施した下記の事業所の外部評価の結果をご報告します。  
この報告を貴事業所におけるサービスの質の向上に向けた取り組みの一助としてご活用いただき、地域における認知症等高齢者の生活・介護等の拠点として一層ご活躍されることをご期待申し上げます。  
また、本報告書は、以下のような場面などでご活用ください。

- ・ 利用申込者またはその家族に対する重要事項等の説明
- ・ 事業所内の見やすい所への設置または掲示
- ・ 運営推進会議など関係者への説明

法 人 名	社会福祉法人 福井康久会
代 表 者 名	理事長 横井 秀治
事 業 所 名	グループホーム レインボー灯明寺
評 価 確 定 日	2021/1/20

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100652		
法人名	社会福祉法人 福井康久会		
事業所名	グループホーム レインボー灯明寺		
所在地	福井県福井市灯明寺町59字12番1		
自己評価作成日	令和2年11月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

o	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php</a>
---	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 2 年 12 月 9日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中、本人のペースに合わせゆっくり過ごしていただいています。できることへの支援として生活の中でできるリハビリを中心に取り組んでいます。コロナ渦の前までは、併設されている認知症デイサービス利用者との交流も盛んで外出やデイサービスのレクにも参加していました。小学生や中学生の福祉教育の場としての受け入れもしています。その他にも介護実習生、留学生の受け入れもしており、様々な年代の方たちとの交流に努めています

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、福井市北西部の住宅地のはずれにあり、周辺には水田などがひろがっている。また、公園・コンビニ・スーパーマーケットなども周辺にある。「心穏やかに笑顔で過ごせる場所となるように目指します」を理念に掲げ、今までの暮らしができるだけ継続できるように心掛けた支援を行っている。コロナ禍で、利用者に感染させないために、併設するデイサービスセンター利用者との交流を中止したり、デイサービスセンター職員の入室制限をしたり、感染リスクを軽減することを心掛けている。また、外出ができない状況下では、椅子に座っている時間が長くなり、筋力低下が生じる可能性があるため、フロア内を散歩したり、体操の時間を長くしたりすることで体力維持を心掛けている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を元に職員一人一人に意見を出してもらい、目標となるものを考え実践している	理念を、玄関・会議室等に掲示している。理念を具体化した、ケア方針や介護目標・個人目標などを作成している。年1回、振り返りの時期を設けているが、日々の業務前に振り返り、職員のステップアップにつながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており、地区の行事や市の防災訓練に参加している。毎年、近くの小学校の福祉体験の受け入れを行っていたが今年度はコロナのため全て中止となる	中学校では、職員が講師となり、介護職の話を行った。また、小学生が、総合学習で事業所に来て、車いす・特殊浴槽を体験した。毎年、地区の清掃活動に利用者と共に参加したり、公民館行事や地域住民の文化祭にも利用者と共に参加し地域とのかかわりを持っていたが、コロナ禍で今年度はすべて中止になった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中学生に対して認知症についての勉強会を行っている。近くの中学校にゲストティーチャーとして介護の仕事や認知症について話し、認知症の理解に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では活動報告のほかに事故報告も行っている。包括支援センター職員、会議出席家族からも意見、アドバイスをもらっている。コロナの為、集まっていた会議は少なかったが、書面会議として行った。	2か月ごとに、民生委員・自治会・地域包括支援センター職員・利用者家族等の参加で開催している。偶数月の土曜日を開催日と決めることで、参加しやすい状況になっている。参加者から意見や助言をもらい、サービス向上に生かしている。コロナ禍で、書面会議に変更になった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からの案内、パンフレット、新聞の切り抜きなど玄関に掲示している。	壁側に配置しているベッドについてベッド柵を使用することについて介護保険課に相談した。また、確認事項や相談事項などは、地域包括支援センターに確認を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重要事項説明書に記載し職員間でも申し合わせている。玄関の施錠はしていない。緊急やむを得ず施錠する際はご家族に説明し、経過観察、再検討記録を記し今後どのように対応していくのかを話し合っている。月に一度ある幹部会でグループ全体で身体拘束について話し合い検討している	身体拘束の研修を定期的に行い、拘束をしないケアを職員全員が理解し、ケアを実践している。屋間は施錠していない。ベッド柵による拘束について、職員間で検討を行い、ベッド柵が必要な場合は、家族の同意を得て使用することになった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行っていて、職員による虐待はない。入浴時にはアザ等の虐待の兆候を見逃さないようにしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長は社会福祉士の資格を保有しており、権利擁護や成年後見制度等の必要のあるご家族には活用のため説明している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去するにあたり、不安な点や疑問に思うことを十分に話し合い、ご理解をいただいている。面会時に話を伺ったときはその都度説明し、ご理解いただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者及びご家族から意見要望があった時には早急に対応している	面会時に必ず声をかけて、意見や要望を確認している。また、電話で確認することもある。確認した情報は、カルテに記載し、職員間で共有し日々のケアに反映している。面会ができない状況のため、生活風景の写真などを、家族に渡している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	長期にわたり、職員が働くことが出来るように状況に合わせた勤務内容や時間帯の見直しや、休憩時間の取り方等、職員からの意見を取り入れ対応している。	職員が上司に思いを言いやすい環境であり、職員の意見や取組みたいことは、できるだけ反映するように努力している。コロナ禍で、利用者に感染させないために、勤務内容や休憩時間の取り方等、職員からの意見を取入れ対応した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度昇給がある。施設内の勉強会では職員が講師役を務め、その中から年間の最優秀者を選出し、モチベーションの向上につなげている。誕生日には施設長から直接お祝いを手渡されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはできるだけ参加してもらっているが、今年度はコロナの為中止となる研修が多かった。施設内勉強会は担当職員が内容を検討し行っている。内容は業務に密着したものとなっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、グループホーム同士情報交換や勉強会などに参加している。グループホーム職員研修では毎年受け入れをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の見学時に、ご本人と話す機会を持つようにしている。不安に思っていること、気になること困っていること等聞くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が見学申し込みに来た時に、不安に思っていることや困っていること家族の思いを聞くように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や申し込みに来た際、その方の状況によっては他のサービスを勧めることがある。早急な対応が必要と感じる方には他施設への申し込みを勧めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護するという考え方ではなく、共に寄り添いながら生活リハビリを行い、その人らしく生活できるよう一緒に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、ご家族の思いや不安、不満、希望や要望についても十分聞くようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の兄弟姉妹、親戚、友人が面会に来られている。面会時には写真を撮りプレゼントしている。	コロナ禍のため、希望者には、感染予防をしながら馴染みの美容室への支援等を行っている。携帯電話を使用する利用者には、充電などを行い、いつでも家族・知人と会話ができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士と一緒に出掛けられるように配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や医療機関へ移られた後も、相談員と連携しながらご家族、ご本人が困ることが無いように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普通の会話の中でご利用者の思いや要望を聞き、できることはなるべく叶えるように努めている	日々の会話などで、利用者の思いや意向を聞き取ることが多い。また、面会時の家族から聞き取りをすることもある。確認した思いや意向は、カルテに記載し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からこれまでの生活歴や過ごし方を聞いたり、兄弟姉妹、友人からも昔のことを聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェック、排泄チェックを行い、健康管理に留意している。1日の過ごし方も記録に記入し少しの変化にも気付けるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは毎月行っている。見直しが必要な時は、ご家族の希望を聞き、担当職員が計画作成担当者とプランの見直しを行っている	利用者との日ごろの関わりの中で、職員が気が付いた課題等をカルテに記載し、定期的なモニタリング・評価・ケア会議に反映している。また、全職員が、介護計画に携わっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いたことはその都度、記録に記入している。記録はいつでも目を通すことが出来るようになっている。職員間のミーティングで話し合ったり、申し送りノートに記入して見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問へアカットの希望を聞いている。ご家族やご利用者の要望に応じて、受診の付き添いや買い物の支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年ボランティアの方に来ていただいて、歌や踊りを見せていただいていたが、今年はコロナ渦の為、外部との交流ができていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者が中心と考えており、かかりつけ医がある場合はそのまま継続して受診していただいている。施設の協力医療機関による往診も行っていて往診をお願いしているご利用者様もいます	コロナ禍のため、家族の了承を得て、往診を利用している。精神的に不安定な利用者には、家族の協力を得て、かかりつけ医への受診を継続している。日々の生活状況等を医師に文書で報告し、受診結果を家族から必ず聞き取りを行う。必要に応じては、職員が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師がおり、ご利用者の体調に応じ、受診が必要かどうかを聞いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者にはグループホームに入所中であることを理解してもらい、早期退院できるよう話をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも説明しているが、話し合いのうえ対応している。重度化した場合、医療機関や老健施設、介護老人福祉施設等、他施設を紹介している。その際必要な資料を渡している。	事業所として、重度化した場合・終末期のあり方について、できること・できないことを説明している。利用者の状態変化ごとに、話し合いの機会を持ち、利用者・家族の意見を尊重した支援を心掛けている。重度化した場合、医療機関や他施設を紹介している。	利用者が急に重度化する場合もある為、早い段階で担当者会議を開催したり、家族やかかりつけ医の意見を確認するといった、体制作りをする必要がある。その為にも、マニュアル作成や勉強会・職員間の話し合いの場を持つことを望む。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故マニュアルがあり、勉強会も行っている。マニュアルは事務所内の棚にわかりやすく保管している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立ち合いのもと、年2回の避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行っている	年に2回 消防署の協力を得て、火災を想定した避難訓練を行っている。昼間の避難訓練は、デイサービスと一緒に実施している。また、夜間想定も行っている。9月に大きな地震があったときに、避難訓練の成果があり、避難訓練の大切さを再認識した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩という気持ちで対応するよう心掛けている。個別性ケアを重視しながら、その方のこだわりを尊重している	プライバシーの研修を行っている。職員が不適切な発言をした場合は、管理者が注意をしている。排泄の誘導はさりげなく行い、個人情報に関する書類作成時にも注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいものの希望を聞き、手作りおやつ等で、たこ焼き、どら焼き、あべかわ餅を作り提供している。受信前に入浴したいと要望のある方には入浴していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大事にしている。食事やおやつ等、後で食べたいといわれる方には、時間を遅らせて、本人のペースで食べていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問ヘアカット利用される方がほとんどだが、パーマや毛染めをされる方はなじみの美容室に通われる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の食の好みを聞くようにしている。例えばお赤飯などお祝い食以外の時にも提供している。食後のお盆拭きや皿拭きをいっしょに手伝っている	デイサービスセンターの利用者と一緒に食事の支度をするため、外部業者を利用している。利用者は、お盆拭きや皿拭きを行っている。週末は、職員が食事の準備をするため、利用者の希望するメニューを積極的に取り入れている。コロナ禍のため、利用者と一緒に食事をすることは中止している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者に合わせた量や形状ににして提供している。水分が摂れるよう好み飲み物を聞いて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。磨き残しのある方には職員はケアを行っている。義歯の方は夜間は預かり、消毒を行い清潔を保っている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握できるようにしている。ご利用者に合わせた声掛けをし、プライバシーに配慮した声掛けを行っている	排泄チェックシートを利用し、排泄パターンを把握している。利用者のトイレのタイミングに合わせた声掛けを行っている。また、排泄が自立している利用者の場合は、様子を観察・トイレ誘導の声掛けを行うなどの支援を行っている。夜のみ、ポータブルトイレを居室で使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中のおやつはフルーツ(バナナ等)を提供している。便秘気味の方には牛乳を飲んでいただいている。毎日、午前午後にて体操を行い体を動かしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望を聞くようにしている。入浴の順番や湯の温度、同性介助を希望される方にはそのように対応している	入浴回数は週2回で、午前中に入浴を行っている。入浴拒否の利用者には、無理強いせず、気分を紛らわしたり時間を変更したりしている。特殊浴による入浴が可能であり、個浴が無理な利用者であっても入浴が楽しめる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	横になる時間を希望される方には自室で休んでいただけるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は個人ファイルにて管理されている。薬のセットは職員2人で確認している。服薬時はご利用者の前で名前を確認し薬を飲みこむところまで見守りしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや皿拭き、裁縫などその方が得意とすることをしていただいている。新聞やスポーツ新聞が好きな方には提供し読んでいただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力のもと外出や外泊、外出に出掛けている。天気の良い日には外出やドライブに出かけている。コロナ感染が拡大してからは外出等出来ない。施設駐車場に出て、体操したり日光浴をしたりしている	新型コロナウイルスの感染が拡大してからは外出等出来ない。天気が良いときは、事業所駐車場に出て、体操や日光浴をしている。また、食材の買い出し時に職員と出かけることもある。外出自粛中ではあるが、できるだけ外の空気を感じるような支援を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理している方がほとんどである		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい掛けてほしいと希望される方には職員が電話を掛けて会話できるようにしている。ご利用者の中には携帯電話を持っている方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の方に作っていただいた作品を飾っている。フロアの壁には季節ごとに利用者の方と一緒に飾りを作り飾っている	共有空間は、窓からの採光で明るく、温度・湿度が適切に管理している。また、コロナ禍で、外出ができない状況のため、部屋の中においても、季節感を感じるような、利用者の作品を飾り、ぬくもりのある空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士が同じテーブルになるように配置している。ソファでもご自由に過ごしていただけるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の方が今まで使用していたものや使い慣れたもの、ご家族の写真、思い出の品物を持ってきていただいている。ご家族の面会時に写真を撮り部屋に飾っている	居室には、ベット・椅子を備え付けている。また、馴染みの家具やテレビなどを置いている。家族の写真や利用者の手作りの作品などを飾り、整理整頓した居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の部屋がわからないという方には、部屋の入口に暖簾を掛けることで、迷わずに自室に戻ることが出来る。暖簾を自分で作ることで愛着を持っている		